

TAKE FREE

富士北麓の輝きを知るフリーマガジン

シルベ!



巻頭特集

ニッポンの笑顔をつくる 北麓人

vol. **03**
2017 冬

グルメ特集

北麓の寒さ吹き飛ぶ「鍋」バトル!

エリア特集

古代の首都!? 富士吉田・明見地区

シルベ!レポート

人口で見る北麓のゆくえ

ニッポンの 笑顔をつくる 北麓人



大切にしているあの本、
愛用しているあの商品、
つい笑ってしまうあの番組。
つくっているのは、
ぼくらの富士北麓で育った
プロフェッショナルたちだった。
日本中を笑顔にしている
彼らの根底にはやはり、
「北麓スピリッツ」が宿っている。

写真／小野口健太





大自然と濃い人づきあいが、
僕の心身を鍛えてくれた。

HORIUCHI Marue

——大石には、転校生としてやってきたそうですね。

父親の仕事の関係で、生まれてすぐ大石を出て、長野や北海道で暮らしていました。それで、小学5年のときに戻ってきた。背中に山があって、河口湖と富士山が広がっていて。北海道の平原とはまた違う、綺麗な景色だったな。同級生は37人。小さい学校だから親同士も同級生だったり、じいさんばあさんもお互い知ってる。みんな優しく、すぐ打ち解けました。

——そのころから、漫画や編集に興味があったんでしょうか。

いや、全然頭になかった(笑)。大学時代、美術展をしよっちゅう見に行っていてね。お金もなかったけど、ほかのより安い集英社の美術全集を買って一生懸命見ていたわけ。こういうのって仕事になるんだったら楽しそうだな。それがきっかけで集英社を受けました。でも僕の中では、集英社イコール画集を出してる会社だったから、漫画の編集をするなんて、全く思っていなかったですね。

——まもなく連載がはじまった「こち亀」や「東大一直線」の担当に。大変なご苦労をされたんですね。

少年ジャンプってのは、アンケートで人気がなかったら10週で連載終了。あの時は、編集者の僕も、漫画家の先生も新米で、どうやって生き残るかっ



担当していた「こち亀」「東大一直線」の単行本。どちらも漫画史に残る作品となった



1982年、田中角栄元首相へ取材する堀内さん。
本宮ひろ志さんの政治漫画「やぶれかぶれ」を担当していた（集英社提供）

自立 自律

堀内丸恵さん

集英社 代表取締役社長

1951年、富士河口湖町大石生まれ。吉田高校卒業後、大学進学を機に上京。新卒で集英社に入社し、漫画編集者に。秋本治さんの「こちら葛飾区亀有公園前派出所」、小林よしのりさんの「東大一直線」などを担当し、人気漫画に育て上げる。週刊少年ジャンプ副編集長などを経て、2011年より同社代表取締役社長。

てことだけでしたね。だから、漫画を
読みあさって、舞台や映画に通って、
新聞のベタ記事だって隔々まで読んで。
これ使えるんじゃないかって。漫画家
と一緒に、どうやったら子どもに喜ん
でもらえるかをずっと考えてました
ね。でも全然苦労とは思ってない。本
当に楽しかったですよ。

——エネルギーに満ち溢れていたんで
すね。

そりゃもう、身体は丈夫だから。大
石の大自然を駆けまわって、毎日が高
地トレーニングみたいなものですよ。
おかげで高校時代は、五合目まで走る
「富士登山強歩大会」で5位入賞。運
動部でもなかったのに(笑)。それに、
濃い人づきあいの中で育ったから、人
との関係っていろいろ、ちっちゃいとき
から鍛えられていたし。そういう心身
の強さは、役に立ちましたよ。

——最後に、北麓の次の世代へメッセ
ージを。

山梨の人ってすごいバイタリテイあ
る気がする。厳しさもあるけど、すば
らしい気候風土で育つからだね。そ
れはすごく強みになると思う。それと、
僕が40年働いてきて大事だと思うのは、
「利他」。すなわち、人に喜んでもらう
ということ。そういう気持ちで、
自分の好きなことに一生懸命でいてほ
しいですね。

親も職人だったからかな。
「いいものをつくりたい」って思いは変わらない。

SHIBATA Fumie

北麓のフィールドは
世界だ!!

柴田文江さん

プロダクトデザイナー

富士吉田市小明見生まれ。富士河口湖高校から武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科を卒業。東芝を経て1994年に独立し、Design Studio Sを設立。無印良品「体にフィットするソファ」、オムロン「けんおんくん」などを手掛け、グッドデザイン賞金賞など受賞歴多数。2003年よりグッドデザイン賞審査委員。2014年より武蔵野美術大学教授。



「脱出計画」に燃えていた河高時代のひとコマ。右から2番目が柴田さん(本人提供)



代表作のひとつ、電子体温計けんおんくん。曲線が織りなす親しみやすいデザインでロングセラーになっている。

——少女時代は、富士吉田を「脱出」しようとしていたそうですね。

4人きょうだいの末っ子だし、ずっとここにはいないだろうと思っただけ。日々「脱出計画」を考えていた(笑)。そのうちに、好きだった美術やデザインが学問として学べると知って、美大を目指すようになりました。でも、地元ではデッサンするための鉛筆もケント紙も売ってない。本当に大変でしたよ。今となっては、かえって画材がなかったのが良かったのかな。野山をかけめぐって、絵を描くだけでは得られない体験ができた。それって、創作にはすごく重要なことですから。

——大学卒業後は東芝のデザインセンターで勤務し、早くも20代で独立されました。

私としては計画通り。フリーランスのデザイナーになるために美大に入って、東芝でキャリアも積んだので。でも最初は厳しくて、本当に何でもやっていました。そこそこ売れてからも、家族からは「ブータロー」と言われて。いつか山梨日日新聞に載ったら、やっと納得してくれました(笑)。

——ご実家は機屋さんなんですよね。そう。家に帰ると、余ったパーバリの生地で作った座布団カバーがあったりね(笑)。近所もみんな機屋で、会社勤めしてる大人はいなかった。だからフリーランスは、私にとって普通

のことなんです。あと、これも親が職人だったからかな。クラフトマンシップっていうか、「いいものをつくりたい」という気持ちはずっとありますね。

——ものづくりの精神ですね。明見の人って、なんでも自分でつくるじゃない。食事はもちろん、洋服や正月飾りも。離れてみてわかったけど、それって人間の本质に近い暮らし。すごく面白いなって。なんでも手に入る東京じゃ、つくるものなんてないんだもの。吉田の織物も、いいものをつくり続けて、信頼性があるから生き残ってきた。今や世界レベルのクリエイターたちが注目していますよ。

——そんな故郷に、今思うことは。

人も来るようになってほしいんだけど、独特の暮らし方とか、景観とか、変わらないでいてほしい部分もあります。例えば山中湖や河口湖。昔はすごく神秘的な湖だったの。80年代に開発の手が入って、タレントショップもできたりして、見る影もなくなった。これからはデザインが外から入ってくるだろうけど、やっぱり地元の人がいニシアチブをもってコントロールしていかないと。今はもう、山梨の中の富士北麓じゃなくて、世界とダイレクトにつながってるんです。きっと若い人はそれを肌で感じてるはず。世界のなかの北麓っていう意識を持って、いい街をつくってほしいですね。

——子どものころから、お笑いが好きだったそうですね

小学校のころから、松本人志さんが大好きで、「ごつつええ感じ」とか毎週観てました。クラスでグループに分かれて出し物やったときには、友達と「桃太郎」のパロディみたいなネタ一生懸命仕込んだんですよ。そしたら本番でダダ滑り(笑)。そのころから芸人への憧れはあったのかな。本当になろうなんて思ってたけど。それより、とにかく都会で大学生になりたかったですね。

——学生時代はどんな生活でした？

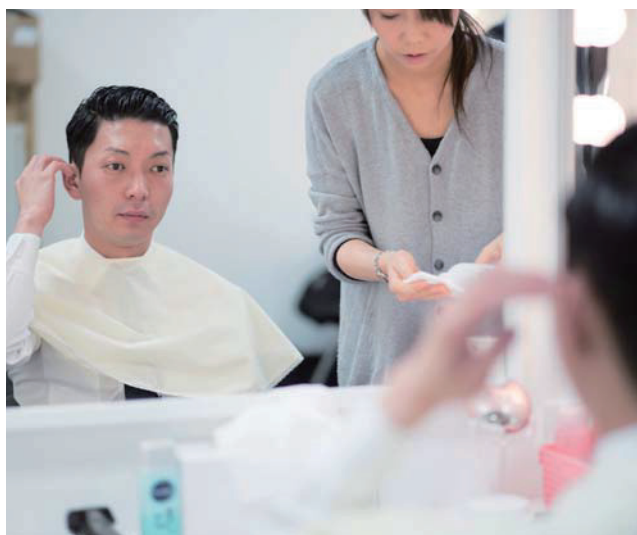
横浜の大学に進んだんですけど、ほんとにダラダラしてましたよ(笑)。今思えば贅沢な時間だったよな。それで、就活のときに『やつぱりお笑いやりたいな』って思うようになって。でもさすがに大学出てすぐ芸人とは思わなかった。音楽も好きだったから、音楽雑誌の出版社とかレコード会社を受けてみたんですよ。もちろん、見事に全部落ちた。そしたら本気でお笑い行ったらって吹っ切れて、すぐにNSC(吉本総合芸能学院)に願書出しました。母親には猛反対されたけど(笑)。

——ずいぶん思い切りましたね。

大卒で22歳だし、年齢的にもどうかと思っただけですけど、入ってみたら案外自分と同じような境遇の人が多くて、そりゃそうですね。同期が700

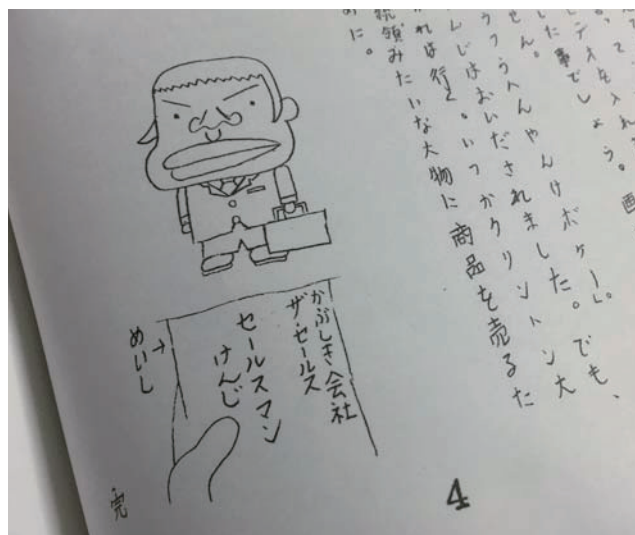
北麓は、東京のすぐ近くなのに、すごい良い場所。
俺がもっと有名になって、広めなきや。

SHIMASA Kazuya



本番前の楽屋。

メイクを終えた若者の表情には、芸人の風格が宿っていた。



下吉田第二小時代の文集に収められた、嶋佐少年の作品。

主人公の営業マン「けんじ」が迷セールスを繰り返す。

人いたんだもん。おっさんもおばさんもいたし、東大卒とか国税局の元職員とかも。授業はめっちゃめっちゃ厳しかったけど、みんな同じように不安だから、仲いい奴もすぐできました。

——相手の屋敷さんも同期ですよ。

はい。卒業間際に向こうから誘ってくれて。2年目くらいから少しずつテレビに出させていた感じで、うになりませんでしたね。でも、ブレイクしないまま7年経っちゃった。関西のお笑いグランプリで決勝行ったりはしてますけど、「M.I.グランプリ」とか「キングオブコント」とかには1回も行ったことない。でも、やるからには、行けることまで行きたい。モチたいし、ビッグになりたいですよ。

——山梨出身の芸人で少ないですしね。

ほんとそう！ すごい調べたんですけど、吉本は山梨県出身者っていないんですよ。だから、僕が一番有名になって、山梨の名を上げなきやですよ。東京来て改めて思うと、北麓ってやっぱいいところだし、富士山見るとテンション上がる(笑)。

——吉田にも結構帰ってるんですよ。

ほんと近いですからね。結婚式とか呼ばれても日帰りでできる。だから、地元の人もどんどんこつちに出てきたらいい。なるようになるんです。失敗したって、帰れる良い地元がすぐそばにあるんだから。



嶋佐和也さん

お笑い芸人

なるようになる

1986年生まれ。富士吉田市緑ヶ丘で育ち、吉田高校卒業。大学卒業後、吉本総合芸能学院 (NSC) 東京校に入学し、2010年、同期の屋敷裕政さんと「ニューヨーク」を結成。コント・漫才で人気を集める。ABCお笑いグランプリでは、2014年から3年連続決勝進出。2016年4月からは、冠番組である「ニューヨークのオールナイトニッポン0」でパーソナリティとしても活躍中。



写真提供 / 富士吉田市環境政策課



エリア特集

悠久の明見 古代ロマンと大自然



今回取り上げるのは、富士吉田市の^{あすみ}明見エリア。富士吉田市街の東側に位置し、明見湖(蓮池)や杓子山など豊かな自然を擁する。この地には古代から人が住んでいたことがわかっており、現在でも数々の歴史ロマンが語り継がれている。そんな神秘的な明見を歩いた。

葛飾北斎「富嶽百景 三編」『阿須見村の不二』。
奥にちょこんと顔を出した富士山が、わらぶき屋根の明見村を見下ろす。
山口県立萩美術館・浦上記念館 所蔵



昔、大きな噴火をした富士山。その姿を見た村人は言った。

「今日はもう見たくない。明日見よう」
これが明見^{あすみ}の地名の由来というの、よく知られた話。「浅間^{あさま}」や「阿蘇」と同じように、火山を表す古語が由来という説も有力だが、どちらにしても、明見は富士山とずーっと昔から向き合ってきた土地なのだ。

一番古い集落は、明見湖周辺の「古原^{ふるはら}」地区。南側の山に守られて、富士山が何度噴火しても熔岩に流されなかったらしい。集落には、長い歴史を物語るように無数の神社や祠があり、独特の雰囲気。一説には、ここに古代王朝があったんだとか!? この話は後ほど詳しく。さて、明見は著名人を多く輩出しているのを存じだろうか。元愛知県知事の桑原幹根氏や、巻頭特集で登場頂いたデザイナー・柴田文江さんも、明見出身だ。地域をよく知る西方寺長老・野村之彦^{のりひこ}さんはこう語る。

「明見の人たちは根っからの働き者。昔、機屋が1日も休まず織機を動かすもんだから、とうとう電気が止められたこともあります。努力をして身を立てる人が多いのかもしれないですね」。

そんな人々だからこそ受け継がれてきた、明見独特の文化や魅力を、次ページで紹介する。

シルベ!

記者が歩いた
明見マップ

明見マップ

360度パノラマ!

絶対登りたい杓子山

「ま、明見で最も熱いネイチャースポットは、なんといっても杓子山! 市街地から標高1598mの頂上までは3時間ほど。年々人気が高まっている。その秘密は、富士山はもちろん、御坂山地に南アルプス、遠く丹沢・箱根まで360度見渡せる絶景だ。」

「間違いなく、日本一の景色です!」と胸を張るのは、杓子山観光協会の桑原秀雄会長。大明見地区の有志数人と頂上の草刈りや登山道整備に取り組み、5年がかりで絶景スポットに育てあげた。2015年11月には、山岳マラソン大会「富士吉田杓子山パノラマトレイルラン」も立ち上げた。

「つぎは、杓子山を案内するガイドの育成に取り組んでいます。若い世代にも、どんどん協力してもらいたいね!」



写真提供 / 一般財団法人ふじよしだ観光振興サービス



不動湯

源頼朝が発見したとされる北麓最古の湯治場。万病に効くとされ親しまれている。日帰り入浴1000円。宿泊も可。富士吉田市大明見4401 ☎ 0555-23-9239

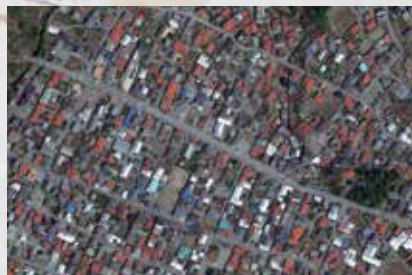
大明見
小室浅間神社

大明見
三十六屋敷

Tapir&tika

大明見三十六屋敷

大明見の中心地は、江戸時代に新しく開発された。水路も整備された先進的な街の面影はいまでも残っており、航空写真からも整然と区画された街並みがわかる。



@2016Google

Tapir&Tika

シンプルで使いやすい、ハンドメイド革小物の工房「Tapir」。そして、オールハンドのオイルトリートメントルーム「Tika」が併設。富士吉田市大明見4-11-3 営 11:00-16:00 (火・木・土のみ)



「徐福伝説」は本当?!

2 200年前のこと。不老不死の薬を探していた秦の始皇帝は、徐福

という学者に出会った。

「日本の蓬莱山に、その薬はあります。行って、私が見つけてきましょうぞ」

従者とともに日本へ渡った徐福。度重なるトラブルを乗り越えて、ついに蓬莱山、富士山にたどり着いた。麓にあった明見の街には、縄文から続く「富士高天原王朝」があつて……。

こんなストーリーが、徐福が書いたとされる古文書「宮下文書」に載っている。二千年も昔から明見に王朝があつたなんて、アヤシイ。そこで編集部は、歴史に精通している富士学苑中学高等学校の山口隆之教頭を訪ねた。

早速ですが、徐福とか王朝とか、実在したんですか?

「本当かウソかの前に、なぜこういう伝説が生まれたと思います?」

うーん、それはやっぱり、明見が歴史のある土地だから?

「その通り! 火のないところに煙は立たないんです。出自はわからないにしても、こういう伝説が語り継がれているこ



徐福や宮下文書についての著作は数多い

「王朝」の中心地とされる明見湖周辺には無数の神社が



イラストマップ/中山成子

と自体に興味があると思います。」

織物は徐福が伝えたとつて言われているし、明見に多い「羽田」さんのもと「秦」氏で徐福の末裔だとか、言い伝えはたくさんありますよね。半分本当のような気もしてきました。

「縄文から続く、富士山を中心とした『森の文明』があつたのは事実だと思いま

す。そこに、徐福に何らかのルーツを持つ渡来人がやってきたのでしょうか。彼らは、水や緑と共生する『和』の文化に感動してここに住み着き、織物などの技術を伝えたんではないでしょうか」

その証を残すために、伝説が語り継がれてきたのかも知れない。太古に思いをはせながら、明見を歩いてみよう。

Topics

恐怖!? 「魔王の森」への誘い

民俗資料に載っていた「魔王の森」の写真が気に入り、古原地区へ向かった。地域住民の方に尋ねながら進むこと30分、向原三丁目4番地付近でついに発見! 鬱蒼とした森を前に、頭の中ではシューベルトの「魔王」がリピート再生されている。勇気を振り絞って、森に突入した!

そこにあつたのは、文字通り魔王をまつた神社「麻王社」の存在を示した石碑。地域では、万病に効く神様として信仰されていたらしい。魔王は、「第六天魔王」ともいわれる悪魔。荒ぶる神様だからこそ丁寧に祀ったのかもしれない。訪ねる際は、心してお参りしよう。



「2010年の水準で人口が推移する」と仮定した場合、約10万人の富士北麓の人口は、約6万2000人に減少する可能性があります。

イラストで示すとおり、市町村ごとの予測値には差があります。要因は、転出入や出生率など様々ですが、富士北麓で鍵を握るのは、子どもを産む世代（20〜44歳）の女性がどれだけ減るか。2010年を100%として、この世代の2060年の人口を予測した場合、最も減少がゆるやかな鳴沢村は約69%、次いで富士河口湖町が約62%、反対に最も減少が激しい富士吉田市は約35%、次いで山中湖村が約

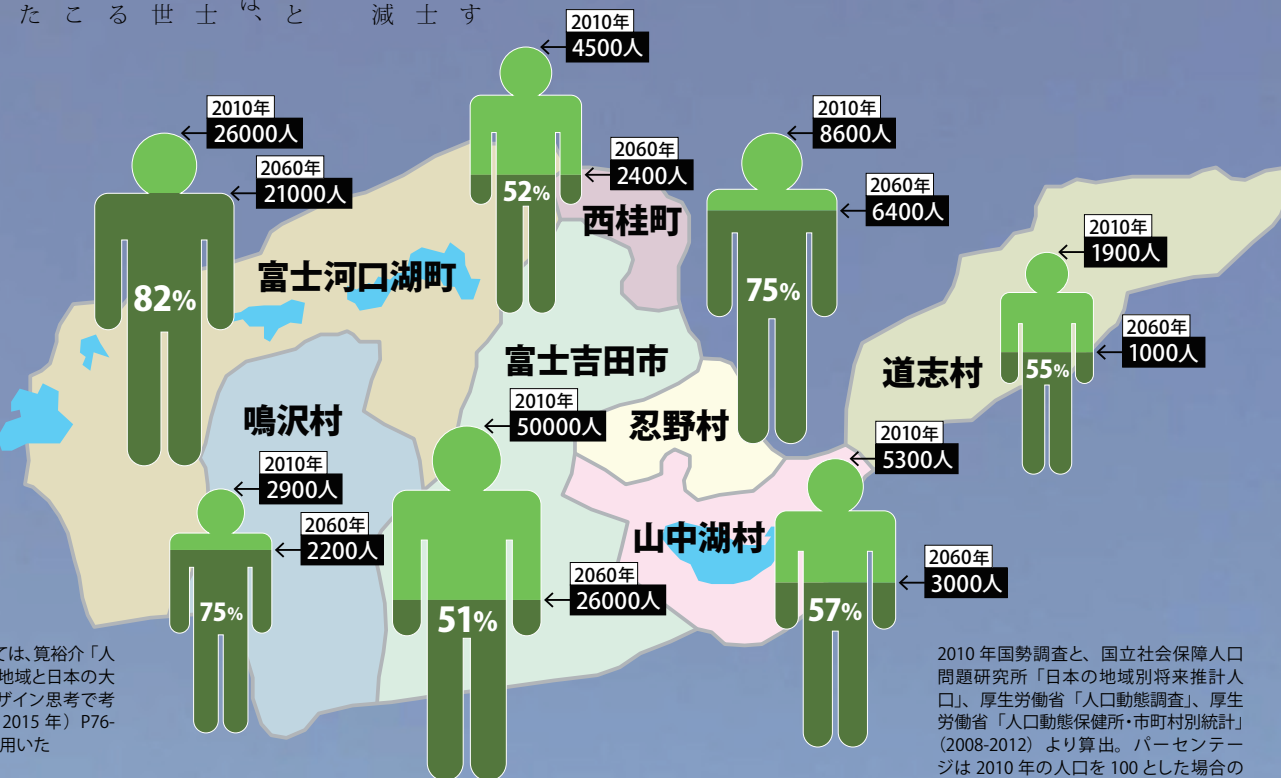


実際、どのくらい人口が減る？



2060年、北麓全体で今の約2/3になるという予測があります。

38%となっています。大企業立地で若年層の転入が多い忍野村を除き、この数字がそのまま人口減少の緩急に影響を及ぼしていると考えられます。



予測の算出にあたっては、寛裕介「人口減少×デザイン 地域と日本の大問題を、データとデザイン思考で考える。」(英治出版 2015年) P76-84で示された手法を用いた

2010年国勢調査と、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、厚生労働省「人口動態調査」、厚生労働省「人口動態保健所・市町村別統計」(2008-2012)より算出。パーセンテージは2010年の人口を100とした場合の2060年の値。人口は概数で表記した。



vol.1

どうなる? 北麓の人口減少

富士北麓のトピックスを、独自取材でレポートする「シルベ!レポート」。
第1回は、最近よく聞く、「人口減少」ということばにクローズアップします。
2014年、民間の研究機関が523市区町村を「消滅可能性都市」としたレポートを発表するなど、近年注目が高まる人口減少問題。
富士北麓にとっても避けては通れない、この課題について考えます。

編集長 佐藤史親

そもそも、人口が減ることは問題なのででしょうか。都留文科大学の両角政彦准教授（経済地理学）は、こう指摘します。

「立場や捉え方によるので一概には言えませんが、急激な人口減少は、住んでいる人にとってはデメリットがあります。地域からお店や企業がなくなったり、十分な医療が受けられなくなったりするからです」

いま起ころうとしているのは、祖母や先祖の誰も経験したことのない、急激な人口減少です。経済が縮小して、今まであった産業が成り立たなくなったり、税収が減って公共サービスが維持できなくなるかもしれません。雇用の場も失われることで、東京都市圏への人口流出が加速し、さらに北麓の人口減少が進むという悪循環になるおそれもあります。

この減少のスピードをゆるやかにしながら、人口規模に合わせた公共サービスや経済のあり方を考えていくことが必要になるのでしょうか。



Q 人口が減るって、そんなに問題？

A かつてないスピードの減少は、暮らしに影響するかもしれません。

Q どうすれば、減少を食い止められる？

A 「働ける」「定住できる」まちにしていくことが、ひとつの方法です。

冒頭の人口予測で確認したように、北麓では子どもを産む世代の女性が減少していくことが、人口減少の大きな要因のひとつだと考えられます。

富士北麓は、合計特殊出生率（女性が一生のうちに産む子どもの数）が全国平均より高く、比較的「産みやすい」環境にあるといえます。人口減少をゆるやかにするためには、若者を地域に引き留めて、安心して働ける、定住できる環境を整えることが急がれます。

例えば、価値の高い商品を生み出せる織物やミネラルウォーターなどの地場産業、世界遺産・富士山を中心とした観光産業などは、継続的に雇用を生み出せる可能性があります。また、賃金や休日など、決して良いとは言えない労働環境も改善していかなければなりません。

「北麓は、どちらかという恵まれている環境。危機的な状況にはまだ陥っていません。できるだけ早く対策することが重要です」と両角准教授。

まずは、私たち一人ひとりが、この街の未来について考えてみるのが、その一歩になります。